

◆アロマテラピーKaorie

カオリエ



宮城県内で数少ないシニア・ソーパー（ハンドメイドせっけん協会認定）が主催するスクール。せっけん作りが初めて

でも安心して参加できる講座が「趣味の手作り石けんsavon（石けん）」だ。肌にも環境にも優しいせっけん作りを基礎から学べる。所要時間は2時間程度。カセイソーダとオリブオイルを合わせたオリブせっけんが作れる。費用は4320円。2〜4人の団体の場合は1人3780円。実施日は応相談。申し込みや問い合わせはメールで。

仙台市青葉区本町2-7-13 遠藤建業ビル305号室
申し込み・問 / info@kaorie-aroma.com
TEL022-796-5475

◆みやぎ蔵王の樹氷めぐり

12月16日(土)~2018年3月18日(日)
11:00、13:30、15:30

キャビン搭載の暖房付き乗用雪上車「ワールドモンスター号」で、専属ガイドの解説を聞きながら樹氷観賞できるツアー。限られた地域にしかできない樹氷は、自然現象の芸術品と呼ばれるほどの美しさ。所用時間は約120分。料金（長靴のレンタル含む）は中学生以上5300円、小学生以下4400円。2歳以下は無料。乗車希望日の

1カ月前から電話での予約を受け付ける。毎年人気のため予約は早め。外を歩くので防寒着を持参して参加を。



会場・問 / 宮城蔵王すみかわスノーパーク
(蔵王町遠刈田温泉字倉石岳国有林内)
TEL0224-85-3055
(9:00~16:00)

◆かき鍋クルーズ

12月1日(金)~24日(日)、2018年1月6日(土)
~3月11日(日)の金~日曜、祝日



松島の冬の味覚、カキを思う存分堪能できる季節限定のクルーズ。約260の島々が浮かぶ松島湾を約50分かけて遊覧する。船内ではその日の朝に水揚げされた松島湾産の生力カキをふんだんに使った土手鍋を味わえる。鍋以外にもフライや酢の物などの料理が付く。

島湾を約50分かけて遊覧する。船内ではその日の朝に水揚げされた松島湾産の生力カキをふんだんに使った土手鍋を味わえる。鍋以外にもフライや酢の物などの料理が付く。料金は大人3400円、小学生2200円。未就学児が食事する場合は小学生と同料金。利用当日の9時30分までに予約が必要。発着時間など詳細はHPで確認を。

発着場 / マリンゲート塩釜 (塩釜市港町1-4-1)
松島海岸レストハウス (松島町松島字町内98-1)
予約・問 / 丸文松島汽船 本社
TEL022-365-3611

※価格は商品1点の総額(本体価格+消費税)

鉄道マニアのシネマレビュー

鉄道員

1956年 / 監督：ピエトロ・ジェルミ / 脚本：アルフレード・ジャンネッティ、ピエトロ・ジェルミ、ルチアーノ・ヴィンチエンツォーニ



発売元・販売元：アネック
価格：3800円(税抜き)
DVD発売中

50歳のクリスマスを迎えたイタリアの機関士アンドレア（ピエトロ・ジェルミ）は、未っ子のサンドロ（エドアルド・ネボラ）から英雄のように慕われていたが、長女のジュリアと長男のマルチエロからは、その厳格さや一徹な態度から敬遠されていました。

娘の流産や息子の不良化を気に病んでいたある日、アンドレアが運転していた列車の前に若者が身を投げます。急いでブ

レーキをかけたが、間に合わずにその若者をひいてしまったアンドレア。そのショックが原因で列車衝突を起こしかけて左遷、酒、スト破りで孤立してしまいます。そんな彼をサンドロは、以前にアンドレアが友人たちと歌っていた酒場に連れて行きます。旧友たちはアンドレアを温かく迎え、家族との和解も見え始めますが...

鉄道員(ぼっぼ)

1999年 / 監督：降旗康男 / 脚本：岩間芳樹、降旗康男 / 原作：浅田次郎



発売元：東映ビデオ
販売元：東映
価格：3500円(税抜き)
ブルーレイ発売中
©1999「鉄道員(ぼっぼ)」製作委員会

北海道の幌舞線の終着駅幌舞の駅長・佐藤乙松（高倉健）は鉄道員「ぼっぼ」や、一筋に人生を送ってきた男でした。幼い一人娘を亡くした日も、愛する妻を亡くした日も、彼はずっと駅に立ち続けてきました。

北海道の幌舞線の終着駅幌舞の駅長・佐藤乙松（高倉健）は鉄道員「ぼっぼ」や、一筋に人生を送ってきた男でした。幼い一人娘を亡くした日も、愛する妻を亡くした日も、彼はずっと駅に立ち続けてきました。

美寄駅の駅長の杉浦が乙松を訪ねて来ます。終列車を見送った2人は酒を酌み交わして懐かしい思い出話に花を咲かせ、乙松の脳裏に数々の出来事がよみがえるのでした。そんな乙松の前に1人の少女（広末涼子）が現れます。優しく話し掛けながら、あどけない少女に17年前に死んだ娘・雪子の面影を重ねていく乙松。実は彼女は成長する姿を乙松に見せに現れてくれた雪子でした...

今回のテーマは「鉄道員」。国や慣習が違えども、鉄道員というのは共通の雰囲気を持つていますね。イタリアと日本の鉄道員の人生を描いた2編を紹介いたします。(いきいきSUNクラブ会員/大澤武信)